

第2学年 国語科学習指導案

日 時 令和6年9月25日(水)
第5校時
対 象 第2学年1組 28名

1 単元名 ビーバーのすごさをつたえよう ビーバーの大工事(東京書籍)

2 単元の目標

読んで見つけたビーバーのすごさをクイズにして、伝え合うことができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	① 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 ② 文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。	① 進んで大事な言葉を探しながら読み、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。

4 指導観

(1) この単元の扱いについて

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編の第1学年及び第2学年内容を受けて設定した。

知識及び技能「(2) 情報の扱い方に関する事項」

(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

思考力、判断力、表現力等「C 読むこと」

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。

カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

本単元の重点指導事項は、「C 読むこと」(1)「ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと」である。重点指導事項から、本単元では、知りたいことに関係のある大切な言葉や文に着目しながら本や文章を読む力を身に付けさせることをねらっていく。

知りたいという気持ちをもつためには、児童が好奇心を抱く言語活動が大切になる。そこで、本単元では「ビーバーについての説明文を読み、見つけたビーバーのすごさをクイズにして伝え合う」という言語活動を設定した。クイズを作るために必要な言葉や文を探しながら読ませることで、大切な言葉や文を探しながら読む力を育成していきたい。

(2) 児童の実態について「児童観」

(3) 教材の活用について「教材観」

<教材文「ビーバーの大工事」表現上の特徴>

- 「木を切り倒して運ぶビーバー」「ダムを作るビーバー」「巣を作るビーバー」という3つの内容のまとまりで構成された文章である。ビーバーが巣を作る工程が順序良く書かれているので、内容を捉えやすくなっている。
- 文章に対応した写真などの資料が豊富に使われており、視覚的にも内容をイメージしやすくなっている。
- ビーバーの特徴や巣作りの様子が、オノマトペや比喻表現を用いて説明されているので、具体的なイメージをもって読み進めることができるようになっている。
- ダム作りの様子や手順について、接続語や指示語を用いながら短い文で説明されており、時間的な順序や事柄の順序を理解しやすい文章である。

<本単元で活用する教材>

① 教員自作の「動物すごいぞクイズ」の活用

第一次では、動物の身体的特徴や生態を基にした「動物すごいぞクイズ」を児童に解かせることで、「ビーバーすごいぞクイズ」を作って友達と伝え合うという言語活動への関心を高める。「ビーバーすごいぞクイズ」を作るためには、「ビーバーの大工事」を読み、ビーバーのすごさを表すキーワードや文を見つける必要があると問題意識を引き出し、単元を貫くめあてを設定する。

また、作成した「動物すごいぞクイズ」は、児童が「ビーバーすごいぞクイズ」を作成する際の見本にも活用する。

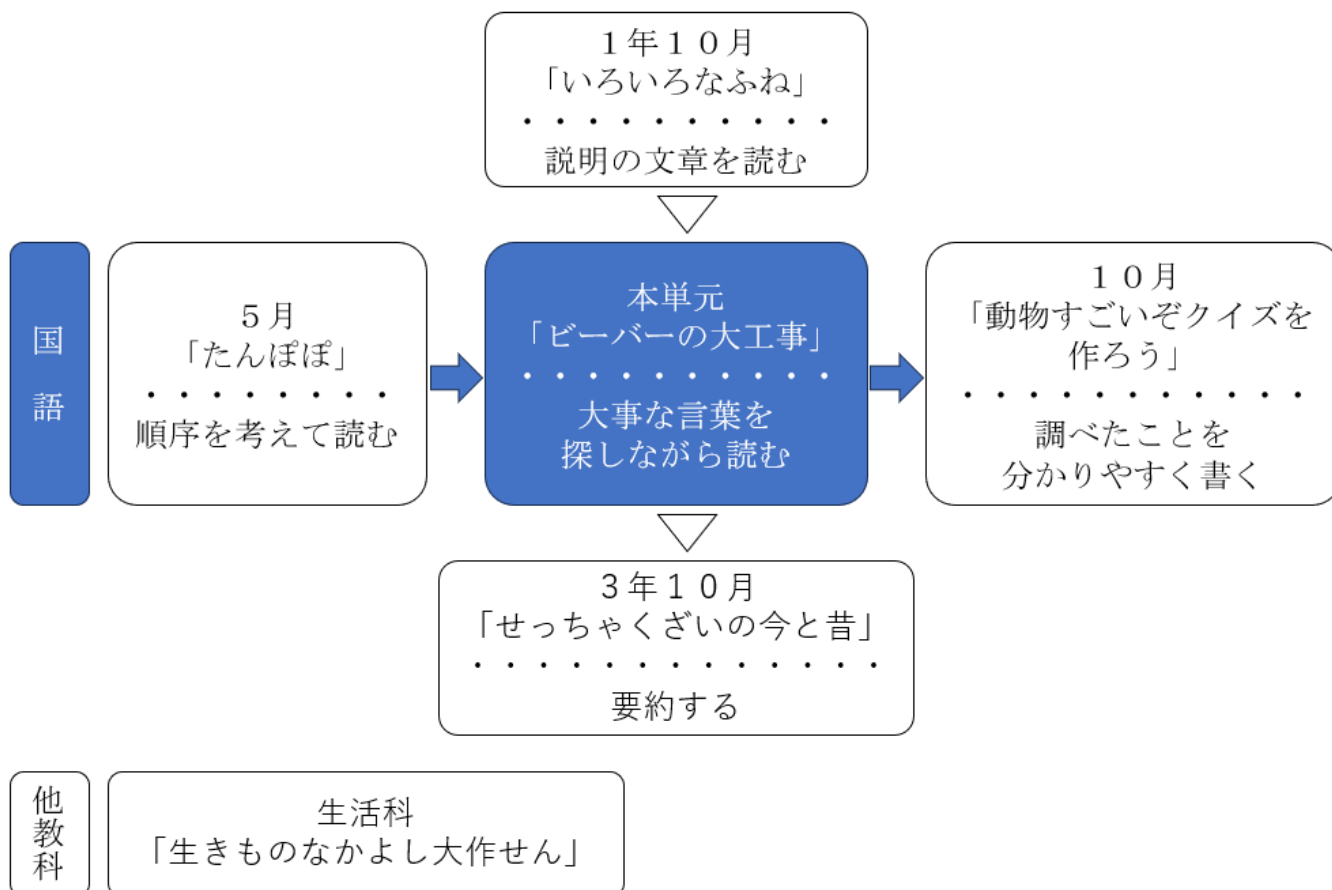
② ワークシートの活用

第二次では、ワークシートを活用してビーバーのすごさを探していく。児童がビーバーのすごさが表れている言葉や文を見つけながら教材文を読めるように、ワークシートの発問を精選し、児童が焦点化して音読に取り組めるようにする。

③ 教室環境の整備

「ビーバーの大工事」の学習後には、自分の好きな動物について「動物すごいぞクイズ」を作成する。図書館司書と連携し、様々な動物の本を用意し、「ビーバーの大工事」の学習と並行して読書に取り組めるように、教室環境を整備する。

5 年間指導計画における位置づけ



6 単元の指導計画と評価計画(全10時間)

		目標	主な学習活動	評価規準 (評価方法)
1	見通す	「動物すごいぞクイズ」を解いて、クイズを作るためにはどんな力を付ければよいか考えよう。	・「動物すごいぞクイズ」を解き、自分たちも「動物すごいぞクイズ」を作る意欲をもつ。 ・「動物すごいぞクイズ」の作り方を学ぶために、「ビーバーの大工事」を読み、「ビーバーすごいぞクイズ」を作るという単元のめあてを確かめる。 ・文章を音読し、ビーバーのすごいと思ったことをワークシートに書く。	主体的に学習に取り組む態度① 【ワークシート】
2	取り組む	ビーバーのどんなことが説明されているか読み取り、友達と共有しよう。	・前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。 ・ビーバーの行動を順序に沿って確かめる。 ・本時の学習を振り返る。	知識・技能① 【ワークシート】
3		「いろいろなふね」を読んで、クイズの作り方を知ろう。	・前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。 ・1年生の時に学習した「いろいろなふね」の説明文で、「消防船すごいぞクイズ」を作り、クイズの作り方のポイントを知る。 ・学んだクイズの作り方をまとめる。	思考・判断・表現① 【発言・ワークシート】
4		「木を切り倒して運ぶビーバー」のすごさを見つけて、見つけたすごさを友達と伝え合おう。	・前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。 ・ビーバーの様子を想像しながら音読する。 ・「木を切り倒して運ぶビーバー」のすごさを見つける。 ・見つけたすごさを友達と伝え合う。	思考・判断・表現① 【発言・ワークシート】
5		見つけた「木を切り倒して運ぶビーバー」のすごさをクイズにして、友達と解き合おう。	・前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。 ・見つけたビーバーのすごさを基にクイズを作る。 ・作ったクイズを友達と解き合う。 ・本時の学習を振り返る。	思考・判断・表現② 【発言・ワークシート】
6		「ダムを作るビーバー」のすごさを見つけて、見つけたすごさを友達と伝え合おう。	・前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。 ・ビーバーの様子を想像しながら音読する。 ・「ダムを作るビーバー」のすごさを見つける。 ・見つけたすごさを友達と伝え合う。	思考・判断・表現① 【発言・ワークシート】
7 (本時)		見つけた「ダムを作るビーバー」のすごさをクイズにして、友達と解き合おう。	・前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。 ・見つけたビーバーのすごさを基にクイズを作る。 ・作ったクイズを友達と解き合う。 ・本時の学習を振り返る。	思考・判断・表現② 【発言・ワークシート】
8		「巣を作るビーバー」のすごさを見つけて、見つけたすごさを友達と伝え合おう。	・前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。 ・ビーバーの様子を想像しながら音読する。 ・「巣を作るビーバー」のすごさを見つける。 ・見つけたすごさを友達と伝え合う。	思考・判断・表現① 【発言・ワークシート】
9		見つけた「巣を作るビーバー」のすごさをクイズにして、友達と解き合おう。	・前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。 ・見つけたビーバーのすごさを基にクイズを作る。 ・作ったクイズを友達と解き合う。 ・本時の学習を振り返る。	思考・判断・表現② 【発言・ワークシート】
10	ふり返る	単元の学習を振り返り、分かったことや身につけたことを確かめよう。	・本時のめあてを確認する。 ・学習を振り返りながら全文を音読する。 ・単元の学習の振り返りをし、発表する。	主体的に学習に取り組む態度① 【ワークシート】

7 指導の工夫

できそう！やってみたい！！前のめりに学ぶ児童の育成 国語科説明文における「読み解く力」の育成

<読み解く力ポイント>【イメージ同定】におけるつまずきポイント

オノマトペや比喻表現を用いて表現された文を、正しくイメージできない児童がいる。音読をする際に、動作読みをすることで、全員が正しいイメージをもてるようにする。

<前のめりポイント>

単元の導入で、教員自作の「動物すごいぞクイズ」を解く活動を取り入れる。いろいろな動物のクイズを解くことを通して、自分たちもクイズを作りたいという意欲をもたせ、学習に取り組めるようにする。また単元を通して、ビーバーのすごさを読み取るだけでなく、読み取ったことを基にクイズを作って友達と伝え合う活動を設定する。読み取って終わりにするのではなく、読み取ったことをクイズにすることで、読み取りに意欲的に取り組めるようにする。

8 本時（全10時間中の第7時）

(1) ねらい

動作読みを通して文章中の重要な文を捉え、特にすごいと思った点をクイズにして友達に伝えることができる。

(2) 展開

	○具体的な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ※「読み解く力」との関連 ■学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法）
Input	○前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 ・ 前は「木を切って運ぶビーバー」のすごさをクイズにして、友達と出しかつた。 ・ 今日は「ダム作りをするビーバー」のすごさをクイズにする。	◇クイズ作りのポイントを振り返り、本時のめあてを設定する。 【クイズ作りのポイント】 ① ビーバーのすごいと思ったところに線を引く。 ② 線を引いた文から答えになる言葉を見つける。 ③ 答えに合うように問題を考える。
	「夜に家ぞくで作るビーバーのダム」のすごさをみつけてクイズにし、友だちとクイズをとき合おう。	
Think	○意味段落②「夜に家族で作るビーバーのダム」を音読し、ビーバーのすごさをみつける。 ○みつけたすごさを全体で確認する。 ・ ビーバーは石や泥も使って、丈夫なダムを作る。 ・ 家族で協力してダムを作る。 ・ ビーバーは15分間も水に潜れる。 ・ ビーバーの作るダムは、高さ2m、長さ450mもある。	◇第2時でまとめた意味段落の見出しに着目させることで、ダム作りをするビーバーのすごさをみつけてクイズを作ることを確認する。 ※音読をする際に動作読みを行い、読み取りが苦手な児童もビーバーの様子を正しくイメージできるようにする。 ◇一番すごいと思う文に線を引かせる。 ◇自分の力で線を引けなかった児童には、友達の意見を参考にして線を引かせる。 ■文章中のビーバーのすごさが表れている言葉や文を選び出している。（発表・ワークシート）
Output	○みつけたすごさを基に、クイズを作る。 ○作ったクイズを友達と出しかつ、必要に応じて加筆・修正をする。 ○本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	◇クイズを作れない児童には、前時までのワークシートを振り返らせる。 ◇よく出来ているクイズは全体で共有する。 ◇交流の後に加筆・修正の時間を設けることで、大事な言葉や文に着目したよりよいクイズ作りが行えるようにする。 ■文章から分かったビーバーのすごさをクイズにして、伝え合っている。（観察・ワークシート） ◇振り返りの視点を与え、自分の学び方を振り返らせる。

成果	課題
・読み取ったビーバーのすごさをクイズにする活動が児童の興味関心を引き、意欲的に授業に取り組んでいた。 ・クイズを作る時に「動作読みで内容確認」→「一番すごいと思ったところにサイドラインを引く」→「サイドラインを引いた文から答えになる単語を選ぶ」→「問題を作る」と型が決まっていたので、児童が悩むことなく活動に取り組んでいた。 ・音読の際に動作読みを取り入れることで、児童が意欲的に音読に取り組み、活動につながっていた。	・読み取りからクイズ作りまでを1単位時間で行うのは慌ただしかった。本時の内容を2単位時間に分けて行うとよかったのではないかな。 ・作ったクイズを出し合った後に、自分のクイズを作り直す時間を十分に確保できていなかった。自分のクイズを再び見直すことで、再び教材文を読み、深い読み取りにつながっていく。 ・音読の際に最初から動作読みを行ったが、それでは聴覚的な情報しか得られないので、自分たちで一度音読してから動作読みを行うと、視覚的な情報も得られよかったのではないかな。